

1 講演会 「幼児教育と小学校教育の円滑な接続について」

静岡県教育センター 幼児教育推進室長 福井 孝子 氏

2 グループ研修

①-1 「幼保小の懸け橋プログラム」を活用した幼小接続の工夫

1 協議内容

(1) 幼小接続の推進について

- ・ 小学校の授業を参観することで、幼稚園での育ちが小学校でどのように活かされているのを見届けることができる。通常の勤務体制では担任が毎回参加するのは難しいが、参加した園長が職員へ内容をその都度伝えていくことで、小学校とのつながりに対する職員の意識が少しずつ高まってきている。
- ・ 中学校区の研修会で「スタートカリキュラム」についての話し合いが予定されている。自園の教育計画を基に目指す子供の姿を共有し、内容を深めていきたいと考える。
- ・ 連携をしていくために、幼稚園職員は遊びの中の学びを語れるようにしたいと日々努力している。今後も一人一人の力量を高めていくことが必要である。

(2) 幼児教育の発信について

- ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識した学年だよりを保護者や地域に配布している。小学校にも、分かりやすい発信をしていきたい。

①-2 「幼保小の懸け橋プログラム」を活用した幼小接続の工夫

1 協議内容

(1) 実践報告について

- ・ 入学への期待感を少しずつ高められるよう、一学期から小学校に訪問し、給食や授業の参観、授業体験等を計画的に実施し、子供の興味や安心感につなげている。
- ・ 幼小の職員が、互いの保育や授業を体験し研修することで理解を深めている。
- ・ 近隣園と合同で学校を訪問する活動を、年間の計画に組み込んで実施している。

(2) 幼小互いに無理のない連携の工夫について

- ・ 小学校の20分休みや昼休みの時間を利用して交流ができるように計画をする。
- ・ 園児が参加しやすい生活科の単元で、小学校との交流ができるように調整する。
- ・ 園の施設の利用や年長児が参加する就学時健康診断のお手伝い等、隣接の良さを活かした新たな連携の検討をしていく。

②-1 つながりのある発達支援教育の推進

1 協議内容

(1) 一学期に各園で取り組んだこと

- ・ 近隣の発達支援の部屋のある園に職員が参観をした。2学期以降も行う予定である。
- ・ 園児が併行通園をしている療育施設に職員が参観する予定である。
- ・ 個別の支援計画について面談で保護者に説明し、すべての保護者に了承を得た。

(2) 成果や課題について

- ・ 個別の支援計画を作ることを通して保護者との信頼関係を構築することが大切である。
- ・ 個別の支援計画は、保護者の了承を得てそのまま小学校に送る。そうすることで小学校でも支援計画を作りやすく、スムーズな接続につながる。
- ・ 小学校の発達支援学級をできるだけ保護者が見学できるように、幼稚園が積極的に保護者と小学校をつないでいくことが大切である。
- ・ 幼稚園の発達支援の部屋と療育施設を混同している保護者もいる。幼稚園の発達支援の部屋について周知をしていくことも必要だと感じる。

## ②-2 つながりのある発達支援教育の推進

### 1 協議内容

- ・ 保護者支援は、保護者の気持ちに寄り添いながら子供の困り感を伝え、良好な関係を保つように心がける。焦りすぎて関係性が壊れないよう留意していく必要がある。
- ・ 専門的療育機関や小学校の発達支援コーディネーター、保健師との連携は有効である。ただし専門的療育機関への相談は時間を要するため、その間の保護者支援も園としての役割となる。
- ・ 園内における支援体制を図っていくことも大切である。担任だけに任せず園全体で支援していく姿勢をもつことが大切である。

## ③-1 安心・安全な園経営のための危機管理能力の向上

### 1 協議内容

#### (1) 「ヒヤリハット報告書」を各園で活用しての成果について

- ・ 「ヒヤリハット報告書」を各園で作成し、事案や職員の危機意識について情報交換を行った。記録をとることで、ヒヤリハットが起りやすい場所や時間などが分かり、問題の改善や役割分担などの意識が高まった。
- ・ 事案を記録するだけでなく、それぞれの報告をまとめてヒヤリハット研修を行い、共通理解を図ることや、遊びや生活の中のルールを作っていくことの大切さを感じた。

#### (2) 職員の危機管理意識について

- ・ ヒヤリハットについて、自己判断での対応や未報告などがあった。組織として、全職員の共通理解や、危機意識を高めていくことが重要である。
- ・ 担任が安全管理をしながら、保育を重視することができるよう、園長として何ができるか、何が必要か考えていくことが大切である。

## ③-2 安心・安全な園経営のための危機管理能力の向上

### 1 協議内容

#### (1) ヒヤリハットの取組について

- ・ 提供されたヒヤリハットの形式を参考にして検証記録を作成し活用した結果、怪我が多い場所や理由が明確になり全職員が共通理解できるようになった。また、環境構成や援助等、危機管理の面で教師の意識向上につながっている。

#### (2) 災害時の対応について（6月上旬の災害対応）

- ・ 危機管理マニュアルを基に対応した。災害状況や対応等の記録はホワイトボードを活用することで明確となり落ち着いて対応できた。
- ・ 災害対応時、職員が園に辿り着けないこともある。近隣の小中・地域住民等、園周辺の方の協力体制も必要である。

## ④-1 小規模園における幼児教育の充実に向けた園経営の工夫

### 1 協議内容

#### (1) 複式学級の週案について

- ・ 各園の実情に合わせて様式や記載事項等を検討し、立案・作成をしている。
- ・ 週案を作成することが目的にならないよう、職員間で活動や子供の育ちなどについて共通理解を図る媒体として作成していけるとよい。

#### (2) 各園の課題や取組について

- ・ その年の実情に応じて、臨機応変にクラス運営を考えていく必要がある。
- ・ 学級編成ができない学年がある場合の教育活動への影響が大きい。他園との交流や職員同士の情報交換が重要になっている。
- ・ 全園児を職員みんなで育てていく。担任が保育の楽しさを感じられるように、園長として担任のケア、フォローの仕方を考えていきたい。

#### ④－2 小規模園における幼児教育の充実に向けた園経営の工夫

##### 1 協議内容（小規模園における週日案の工夫）

- ・ 2週間に1回の週日案にしている。
- ・ 今年から複式学級になり先行事例の無い中、試行錯誤を重ねながら保育を進めている。
- ・ 10の姿をおさえながら週日案を作成しているが、幼稚園教育要領を基にすることを意識したい。
- ・ パソコンを使い昨年度の週日案に取組を追加していくと、どんどん細かくなってしまふ。第三者が見ても分かりやすいように内容を精選していきたい。
- ・ 年長と年中ではねらい・内容が異なるため、複式学級で同じ環境を設定していても保育の意図が分かるように、週日案に各学年のねらい・内容を明記する。
- ・ 複式の保育では、年中児が年長児に刺激を受け成長する姿が見られる。年齢にこだわらず、その子が伸びる時であると捉え、支援をしていきたい。